

●●
特集

医療安全への取り組み

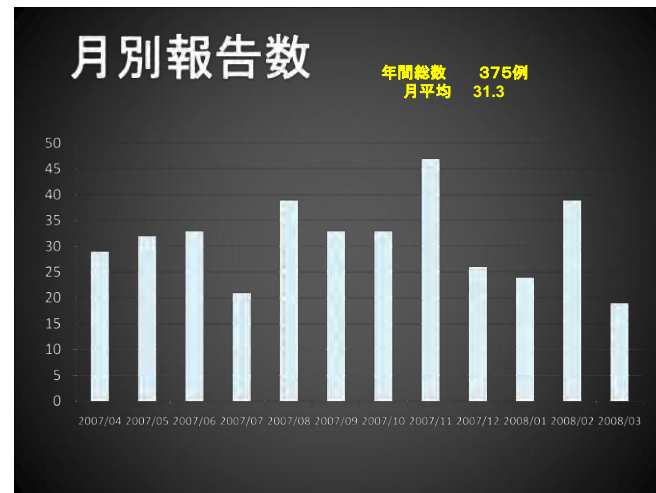
FRONT ESSAY FRONT ESSAY

●昨年度のレポート報告と優秀者の表彰

医療安全に関連した勉強会を年に3回開催しています。毎回、職員の高い意識のおかげで参加人数は増加しています。(シール配布の効果のおかげ?)

今回は5月22日に河崎委員長から昨年度のSAレポートの集計についての報告がなされました。

2007年度のレポート報告数は375件で、月の平均は31.3件でした。



<グラフ1>

部門別件数は、看護部が57%、リハビリテーション部が18%、診療技術部が10%、診療部が9%、事務部が4%、記載なしが7%でした。

患者影響度別件数はIが最も多く次いでIIでした。グラフ2のようにインシデントが80%を占めますが、アクシデントは10%・38件ありました。患者影響度IV

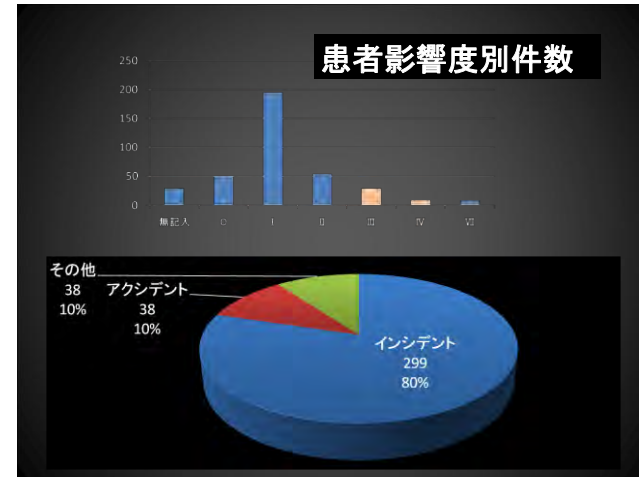
2008 No. 1 島田病院医療安全管理委員会が送る 患者さまと職員の安全に関するニュース

●●

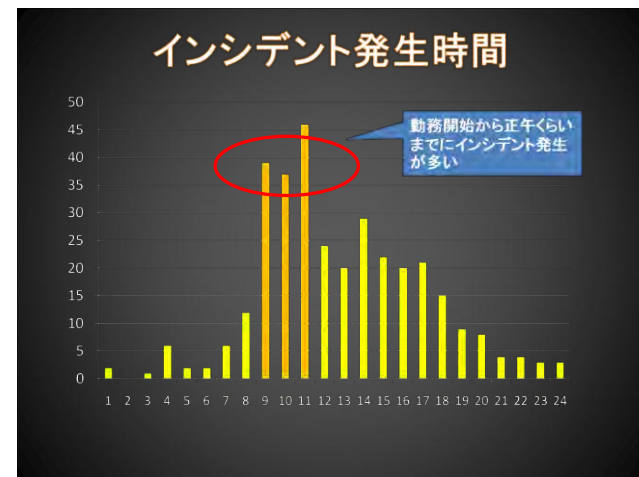
FRONT ESSAY

昨年度のレポート報告の優秀者の表彰

は9件でした。



<グラフ2>



<グラフ3>

グラフ3のインシデント発生時間については、午前9時から12時までの勤務開始から約3時間に集中している傾向がありました。これは島田病院の特徴を呈しているとも考えられます。外来診療が開始する、退院、入院患者が出入りする、手術翌日のリハビリが始まる、手術が開始される等々、業務が集中する時間帯とも言えます。また、原因別では、「確認不足」が全体の55%

を占めています。これらの集計結果から自部署の午前中の業務の偏り等を分析し、業務改善することで事故防止につなげられるのではないかと考えます。是非、皆さんで自部署の午前中の業務から見直しをしてみてくださいはいかがでしょうか。

今年度の新しい取り組みとして、レポートは医療事故防止のための貴重な資料であり、報告者はシステム改善の協力者であるということから表彰制度を行ないました。今回、レポート入力者の上位者9名の職員の表彰となり、表彰状と図書券を授与されました。

<表彰風景>



これからもみなさんも事故防止のためのSAレポート入力に期待しています。

安全管理委員会メンバー 看護部 国本景子

●臨床工学技士とは

今年度初めて当院に臨床工学技士が入职しました。最近TVドラマでその名と職業を知っている人もいらっしゃるかもしれませんが、その仕事内容と当院に入职した臨工(臨床工学技士)を紹介します。

臨床工学技士の制度は1987年に制定され、医師の指示の下に、生命維持管理装置の操作及び保守点検を行なうことを業とする医療機器の専門の医療職種で、国家資格です。

代表的な業務の例は、

- ① 血液浄化療法(人工透析)での業務として、血液浄化装置の操作や点検を行ないます。
- ② 手術室での業務として、手術室には大きな機器や、小さな機器が数多くあり、広範囲な医療機

器の操作や事前の管理が重要で、特に体外循環装置(人工心肺)など多いときには数十台もの機器が同時に使われます。その際の機器の操作や使用前の点検などを行ないます。

- ③ 集中治療室での業務として、人工呼吸器や、ペースメーカー、除細動器などの生命維持管理装置の操作や点検を行ないます。
- ④ 高気圧酸素療法での業務として、医療機器の操作や点検を行ないます。
- ⑤ その他、病院内にある医療機器全般の点検と管理業務を行ないます。

当院では、手術室に勤務し麻酔器や手術機器全般の点検とメンテナンスを行い、また、病棟や外来の心電図モニターや輸液ポンプ等の点検にも伺っています。

●初めまして、臨床工学技士として手術室配属になりました重竹雅也です。手術室や病棟、外来等に置いてある医療機器を管理、点検させて頂いております。普段は手術室にいる為、他部署の方々とお会いする機会は非常に少ないですが、いつでも気軽にお声をかけて頂けたらと思います。さて、臨床工学技士とはどんな職業かと申しますと、医療と工学の二つの知識を持ち、医学的分野での工学を確立させている職業になります。どの分野でも共通しているのは機械の操作を行うという事です。医療機器のスペシャリストになり、誰よりも医療機器のことを理解していることが理想であります。しかしながら、資格の違いから放射線機器は範囲外となります。基本的に意識のある患者さんと直接接する機会があるのは人工透析だけで、人工透析における内シャントといわれる血管と人工血管に関しては穿刺も出来ます。「一定の場所のみ何々してもいい」といった感じの制限が多く付いております。変わった職種ではありますが、何卒宜しく御願ひ致します。

プランナー:看護部 国本

次号は9月です!

発行人 医療安全管理委員会 編集担当 森下 幸子
発行所 医療法人永広会島田病院内